

児童2、3年 目的別クラス議事録 (2016/12/17)  
参加者：目的別クラス該当保護者及び興味のある保護者、  
役員〔ソープさん 千田さん〕、改善係

浦田さんより説明

- 1、現状確認
- 2、教室の確保
- 3、カリキュラムの設定（現在児童2、3で使用中のドリルを保護者に見てもらう）
- 4、目的別クラス設置の目的
- 5、課題
- 6、11月26日に行われた山本先生クラスの感想

※登先生クラス：アトリエクラス。工作などを中心に、ゆっくり授業を進めるクラス。  
山本先生クラス：アトリエクラスに行かない子供達で、今まで通りに進めるクラス。

<山本先生クラス視察の感想と提案>

学力の差を大きく感じました。クラス前後ほぼその差は2時間通して変わりませんでした。子供たちをあきさせないスピーディーな授業でみんな楽しそうに受けていました。目的別クラスの残りの1時間は、最初の1時間と同様、発言、読み書きどちらも得意な子、発言はしないがもくもくと読み書き作業を続ける子、発言はするが読み書きはあまり得意ではない子、発言も読み書きもどちらも苦手な子といろいろでした。読み書きの時間になると、プリントの終わり具合で、早く終わった子は私語をしたり、鉛筆を投げたりしている光景も見かけました。やってる内容は少々難しいかと感じましたが、恐らくこの大きなレベル差の真ん中を取ろうとすると現在されているレベルが妥当なのかもしれない。現状維持の保護者の意思を組んでいることで、学力の差はそのまま通常クラスと同じように存在していることになっているのかなと思いました。アトリエクラスを定着させていく上でレベル別にするのか、目的別にするのかが大きな関心点になっていくのではないかと思います。ゆっくりなペースで勉強する子供にはアトリエクラスの存在はとても大事だと思います。しかし、現在のクラス編成（保護者と生徒の意向でレベルに関係なく年齢でクラスわけすること）が存在する限り、根本的な各クラスの学力差問題は解決しないのではと思いました。

<登先生のコメント>

現在のクラス分け方法では根本的な解決には至らない。

問題点は以下の3つ。

- 1、保護者の「レベル分け」という言葉への抵抗感。
- 2、長年勤めている先生方は、クラス内のレベル差に慣れているので、変える必要を感じていない。
- 3、日本語センターは塾ではないという意識。

成績によるレベル分けは、あくまでも保護者の希望によって行われなくてはならない。

<意見交換>

・日本語を話す力が通常より劣っていても、漢字を学ぶことを楽しみにしている子供達もいる。漢字をなくして工作をするクラスというよりは、通常カリキュラムの75%程をゆっくり消化するクラスを作ってはどうか。

→学年が上がるほど、生徒数が減り1クラスになる傾向がある。目的別クラスで学力の差が開いた生徒たちを、いずれは1クラスでまとめなくてはならない。

→今は2クラスあるところはレベル分けし、人数が足りなくて将来それを1クラスに戻すのは仕方がない事だと思う。

・通常クラスについていくのが大変でも、アトリエクラスよりも、同じ先生がいいと子供が言う。

・子供達自身には分からないように緩やかなレベル分けをする。ゆっくり進めるからといって漢字を抜かすのではなく、全てをゆっくり進めるクラスを作るのはどうか。

→どうクラス分けをするかが難しい。

→できる子がゆっくり進めるクラスに入ると、学力が下がってしまわないか。

→クラスごとの差があっても、家庭学習の影響が一番大きいので、学力が下がる心配は必要ない。

・親の意識レベルで分けてはどうか。

→これが一番問題だと思う。

・自分は、漢字を覚える必要性はないが、日本語の会話は出来て欲しいと思っている。会話クラスを作って欲しい。

→人数が十分に集まらないと、そういうクラスを開くのは難しい。

・中国語の語学学校では、学力でクラス分けをしていて、2、3年生は一緒だ。そういうクラス分けはどうか。学力によっては、同じクラスを二度繰り返す場合があるのか。

→日本語センターは語学学校ではない。

→子供がついていけていなくても、保護者が続けさせたい場合、保護者が教室に入って、つきっきりで見てやれば良い。

→先生によっては、保護者が入るのを嫌がる先生がいたり、保護者がいることで、他の生徒の集中力を削ぐ場合もある。

→今まで家庭学習を頑張ってきた子供達にとっては、アシスタントを増やして、無理やり続けている子供達がいるのは不公平に感じる。

・アトリエクラスは、保護者参加型であるべき。ゆっくり授業を進めても、家庭学習をないがしろにしては意味がない。2、3歳児に英語を混ぜて話しかけてしまうような保護者の意識をまず変えなくてはならない。

・現在のクラス分けはどのように行われているのか？

→男女人数を均等にし、さらにレベル大体同じぐらいになるように調整する。他にも双子は別々にする、等で分ける。

・1・2年生を低学年、3・4年生を中学年、5・6年生を高学年とし、2学年内でレベル分けの縦割り制はどうか。

→去年、現在の児童5を中高等部と合併吸収させたかったが、保護者に反対された。上の学年になると、友達に会うのを楽しみに学校に来るようになるので、そのまま継続することになった。

・3ー6年生の先生は何年も継続されているので、今更カリキュラムの変更や変革を望んでいない節がある。

→各学年1クラスだと現状維持でもしょうがない面があるが、今せつかく2クラスある学年はレベル分けが出来れば、先生たちの負担が減ると思う。

・児童1も2クラスあるのに、アトリエのトライアルをしていないのは何故なのか？

→〈運営委員〉児童1はカリキュラムが比較的幼児3の復習要素が多いので、レベルの差が表面化することが少ない。しかし、児童2、3になると授業難度が高くなりレベル差が顕著に現れる傾向にある為、対象教員、保護者からの要望により、児童2,3を対象にトライアルが実施された。

→その差を減らす為のカリキュラム編成が必要なのでは。

→幼児の時点で学力の差は見て取れる。そこから解消を試みてはどうか。

→先生方の意見もぜひ聞いてみたい。